

〔共同研究：歴史的対象としての現代科学〕

書誌

ダーウィン一次資料

松 永 俊 男

目次

はしがき

1. 既存のダーウィン書誌
2. その他の書誌
3. 本書誌作製の手順
4. 雑誌記事について

第一部 生前の刊本

I 編著書

1. 『ビーグル号航海の動物学』(1838—43)
2. 『ビーグル号航海記』(1839)
3. 『ビーグル号航海の地質学』(1842—46)
4. 『現生蔓脚類』(1851, 1854)
5. 『化石蔓脚類』(1851, 1854)
6. 『種の起源』(1859)
7. 『ランの受精』(1862)
8. 『攀援植物』(1865)
9. 『飼養動植物の変異』(1868)
10. 『人間の由来』(1871)
11. 『感情の表現』(1872)
12. 『食虫植物』(1875)
13. 『他家受精と自家受精』(1876)
14. 『花の異形』(1877)
15. 『植物の運動力』(1880)
16. 『ミミズと土』(1881)

II 他人の編著書への寄稿

1. 地質学入門
2. ヘンズロー回想
3. エラズマス・ダーウィン伝
4. 序文の寄稿
5. 手紙・草稿の転載

III パンフレットなど

1. ヘンズローへの手紙
2. 公開質問状
3. 推薦状
4. 請願と証言
5. 地域クラブへの勧誘

第二部 草稿類の翻刻

I 『自然選択』

II スケッチ (1842) とエッセー (1844)

III 日記と読書録

1. 航海日記
2. 生涯の日記
3. 読書録

IV 自伝

V 書簡

VI 理論ノート

VII 観察ノート

1. エジンバラ時代の海産生物観察日誌
2. ビーグル号野外観察ノート
3. ビーグル号観察日誌
4. 研究者向け標本カタログ
5. マルハナバチ観察日誌

VIII その他

1. 初期の地質学関係草稿
2. パンゲネシス草稿

補説

1. 全集
2. 邦訳書

はしがき

チャールズ・ダーウィンについての研究は『種の起源』出版百周年の1959年前後から一段とさかんになった。それにともなって一次資料も続々と出版されてきた。現在ではダーウィンの編著書は、版の違いも含めてほとんどリプリントの形で入手できるようになっている。雑誌記事や寄稿文のたぐいもきわめて入手しやすくなっている。また、1960年以後、ダーウィンの草稿類の翻刻が活発になり、そのかなりの部分が利用しやすい形になっている。草稿類の翻刻は今後も続くであろうが、*Theoretical Notebooks* が1983年に出版されることで大きな山を越えることになろう。本稿は研究者が資料入手の際の参考としうるよう、こうした出版状況を

概観したものである。そのためダーウィンの一次資料を一通り網羅し、リプリントなど利用しやすい形のもを収録した。

1. 既存のダーウィン書誌

① R. B. Freeman, *The Works of Charles Darwin: An Annotated Bibliographical Handlist*, 2nd ed., Dawson, 1977.

② P. E. Barrett (ed.), *The Collected Papers of Charles Darwin*, 2 vols. University of Chicago Press, 1977.

③ R. B. Freeman, *Charles Darwin: A Companion*. Dawson, 1978.

① (以後、Fr と略記) は現在のところダーウィンの一次資料の書誌として最も包括的なものである。Part I, books and pamphlets. と Part II, publications in serials. に分かれ、Part I にはダーウィンの著書やパンフレットのほか、草稿類の翻刻も記載されている。各資料について初版初刷以後、1975年末までの諸版に関する内容の異同、製本など詳細な書誌的事項が記されている。ダーウィンの編著書やパンフレットについては本書が最も基本的な書誌である。しかし草稿類の翻刻には欠けているものも多く、ほとんど解説もつけられていないので、編著書の場合ほど有用ではない。また本書には肝心の数字(出版年、項目番号など)にしばしば誤りがある。その多くは単純なミスプリと思われるが、利用者は注意を要する。

② (以後、Bar と略記) にはダーウィンの執筆した雑誌記事と寄稿文が転載されている。雑誌記事の中には Fr の第二部に記載されていないものもある。

③ はダーウィンに関連した人名、地名、書名などを見出しとし、簡単な解説をつけ、出典を記したものである。

2. その他の書誌

最近の出版状況を調べるために下記の書誌を利用した。

① *Isis Cumulative Bibliography*.

② *Isis. Critical Bibliography*, 1976—1980.

③ *Books in Print*, 1982—83.

④ *British Books in Print*, 1982.

3. 本書誌作製の手順

第一部「生前の刊本」は、ほとんど Fr をもとに作製した。ただし、明らかな誤りは訂正してある。リプリントについては最近の販売書誌を参照した。

第二部「草稿類の翻刻」では Fr のほかにダーウィンに関する最近の諸論文を参考とし、できるだけ解説もつけるようにした。

目次でみるように第一部のⅡとⅢ、および第二部は資料の内容によってさらに細かく分類している。これは本稿独自の分類であって一般的なものではない。

なお、本稿でリプリントと呼ぶのは複製(複製)版のことである。リプリントの出版社などでなじみのうすいものについては、初出時に所在地を記載しておいた。また、1960年以後の出版物で絶版であることが明らかなものは、そのむね注記しておいた。1960年より前の出版物はすべて絶版になっているとみてよい。

4. 雑誌記事について

ダーウィンの執筆した雑誌記事については Fr の第二部と Bar とを併用すればほぼ完全な情報が得られるので、本稿では雑誌記事の書誌を省略した。

Fr と Bar をもとにすると、ダーウィンの執筆した雑誌記事は約150点とみることが出来る。雑誌記事の書誌として古いものに *Life & Letters* 巻末のものがあるが、ここには82点しか記載されていない。

Bar に収録されていて Fr に記載されていない雑誌記事が5点あるが、これは Fr のミスであろう。Fr に記載されていて Bar に収録されていないものもあるが、その多くは収録規準の違いによるものである。Bar には他国語の記事、および後にそのまま成書の一部となったものは収録されていない。また、最初にロンドン地質学会の *Proceedings* に紹介され、後に *Transactions* の論文となったものについては、*Transactions* の論文だけが Bar に収録されている。ただし Fr に記載されていて Bar にないもののうちの2点 (Fr の1707と1765) は、Bar のミスの可能性がある。

第一部 生前の刊本

I. 編著書

ダーウィンの編著書の点数は数え方によって違って来るが、ここでは Fr の扱い方にしたがって16点とする。

ロンドンのジョン・マレー社がそのうちの12点を出版している。マレー社以外の出版元もすべてロンドンに所在している。ダーウィンの寄稿文が掲載されている編著書（次章）の出版社もすべてロンドンに所在している。

ダーウィンの編著書16点の中で、『ビーグル号航海の動物学』、『現生蔓脚類』、『化石蔓脚類』の3点だけは、近年のリプリント出版まで再刊されることがなかった。

アメリカでは1871年以後、ニューヨークのアプルトン社がマレー社あるいはスミス・エルダー社の版型をそのまま用いてダーウィンの著書を出版した。アメリカで作られるリプリントは、直接にはこのアプルトン社版をもとにしていることがある。その場合、版型が同じであればアプルトン版のリプリントも対応するロンドン版の個所に記載しておいた。

1. 『ビーグル号航海の動物学』(1838—43)

Charles Darwin (ed.), *The Zoology of the Voyage of H. M. S. Beagle, under the Command of Captain Fitzroy, during the Year 1832 to 1836. Published with the Approval of the Lords Commissioners of Her Majesty's Treasury.* 19 numbers making 5 parts. Smith Elder, 1838—1843.

・リプリント Nova Pacifica (New Zealand), 1980.

下記の5部19分冊からなる。ただし各部を1冊にまとめたものも同時に出版された。

- I. *Fossil Mammalia* by Richard Owen(4)
- II. *Mammalia* by Robert Waterhouse (4)
- III. *Birds* by John Gould (5)
- IV. *Fish* by Leonard Jenyns (4)
- V. *Reptiles* by Thomas Beil (2)

その後3巻にまとめたもの（I & II, III, IV & V）も作られた。リプリントは3巻本である。

ダーウィンは全体への序文と地質学概説（Iの No.1）、地理学概説（IIの No.1）、ならびに各部に注を執筆している。

2. 『ビーグル号航海記』(1839)

①Robert Fitzroy (ed.), *Narrative of the Surveying Voyages of His Majesty's Ships Adventure and Beagle.* 3 vols & appendix to Vol. 2, Henry Colburn, 1839.

Vol. 1. R. Fitzroy, *Proceedings of the First Expedition, 1826—30, under the Command of Captain P. Parker King,* R. N., F. R. S.

Vol. 2. R. Fitzroy, *Proceedings of the Second Expedition, 1831—36, under the Command of Captain Robert Fitz-Roy,* R. N.

Vol. 3. Charles Darwin, *Journal and Remarks, 1832—1836.*

・リプリント（全巻）AMS, 1972.

②*Journal of Researches into the Geology and Natural History of the Various Countries Visited by H.M.S. Beagle under the Command of Captain Fitzroy, R. N. from 1832 to 1836.* Henry Colburn, 1839.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969. ただし, pp. 593-608欠落。

③*Journal of Researches into the Natural History and Geology of the Countries Visited during the Voyage of H. M. S. Beagle round the World, under the Command of Capt. Fitz Roy, R.N.* 2nd ed., Colonial and Home Library Vol. XII, John Murray, 1845.

④*Ibid.*, with new preliminaries and a post-script. John Murray, 1860.

⑤*Ibid.*, but with preliminaries reset. 1870.

本書は初め①の一部として出版されたが、同時に、あるいは間もなく、同じ版を用いて独立した形でも出版された。それが②である。1845年にダーウィンは本書の版權をマレー社に売却し、マレー社の双書の一部として第2版の③が出版された。内容は初版とかなり違っている。④と⑤の本文は③と同じである。④から双書を離れて出版された。③の背書名は *Naturalist's voyage*, ④では *Naturalist's voyage round the world* となっている。現在は *The Voyage of the Beagle* が本書の通称となっているが、この書名は1905年に初めて登場した。

3. 『ビーグル号航海の地質学』(1842—46)

『サンゴ礁』, 『火山島』, 『南アメリカ』の3部作である。

[初版]

① *The Structure and Distribution of Coral Reefs. Being the First Part of the Geology of the Voyage of the Beagle, under the Command of Capt. Fitzroy, R. N. during the Years 1832 to 1836.* Smith Elder, 1842.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969. Univ. California Press, 1977.

② *Geological Observations on the Volcanic Islands Visited during the Voyage of H. M. S. Beagle, together with Some Brief Notices of the Geology of Australia and the Cape of Good Hope. Being the Second Part of the Geology of the Voyage of the Beagle, under the Command of Capt. Fitzroy, R. N. during the Years 1832 to 1836.* Smith Elder, 1844.

③ *Geological Observations on South America. Being the Third Part of the Geology of the Voyage of the Beagle, under the Command of Capt. Fitzroy, R. N. during the Years 1832 to 1836.* Smith Elder, 1846.

④ *Geological Observations on Coral Reefs, Volcanic Islands, and on South America*

etc. Smith Elder, 1851.

[第2版]

⑤ *The Structure and Distribution of Coral Reefs.* 2nd ed., Smith Elder, 1874.

⑥ *Geological Observations on the Volcanic Islands and Parts of South America.* etc. 2nd ed., Smith Elder, 1876.

[第3版]

⑦ *The Structure and Distribution of Coral Reefs.* 3rd ed., Smith Elder, 1889.

⑧ *Volcanic Islands and South America.* 3rd ed., Smith Elder, 1891.

④は①, ②, ③を合本にしたもので、ページづけはもとのままである。『サンゴ礁』の第2版は大幅に改訂されている。第3版はダーウィン没後に T.G. Bonney によって編集されたもので脚注と付録が加えられている。『火山島』と『南アメリカ』は各版とも本文に異同はない。

4. 『現生蔓脚類』(1851, 1854)

① *A Monograph of the Sub-class Cirripedia, with Figures of All the Species. The Lepadidae; or, Pedunculated Cirripedes.* The Ray Society, 1851.

②……*The Balanidae, (or Sessile Cirripedes); the Verrucidae, etc., etc., etc.* 1854.

・リプリント (全巻) J. Cramer (西独), 1964. Johnson Reprint, 1966.

2部作であることは明示されていない。

5. 『化石蔓脚類』(1851, 1854)

① *A Monograph of the Fossil Lepadidae, or Pedunculated Cirripedes of Great Britain.* Palaeontological Society, 1851.

・リプリント Johnson Reprint, 1966.

② *A Monograph of the Fossil Balanidae and Verrucidae of Great Britain.* Palaeontological Society, 1854.

・リプリント Johnson Reprint, 1966.

③ *Index to ②, 2 pages.* 1858.

2部作であることは明示されていない。①には索引があるが②では忘れられたため、別個に出版された。

6. 『種の起源』(1859)

① *On the Origin of Species by Means of Natural Selection, or the Preservation of Favoured Races in the Struggle for Life.*

John Murray, 1859.

・リプリント Harvard University Press, 1964. 雄松堂, 1977.

② *Ibid.*, 2nd ed., 1860.

③ *Ibid.*, 3rd ed., 1861.

④ *Ibid.*, 4th ed., 1866.

⑤ *Ibid.*, 5th ed., 1869.

⑥ *The Origin of Species etc.*, 6th ed., 1872.

⑦ *Ibid.*, but with additions and corrections. 1876.

⑧ *Ibid.*, 2 vols. Library Edition. John Murray, 1888.

⑨ Morse Peckham (ed.), *The Origin of Species by Charles Darwin. A Variorum Text.* University of Pennsylvania Press, 1959. (絶版)

⑩ Paul H. Barrett, Donald J. Weinshank and Timothy T. Gottleber (eds.), *A Concordance to Darwin's Origin of Species.* Cornell University Press, 1981.

版によってわずかな、あるいは大幅な本文の異同があるが、この異同は⑨に網羅されている。

初版では巻頭にヒューエルとベーコンの言葉が引用されているが、第2版ではバトラーのものが追加された。第3版では第1章の前に“An Historical Sketch of the Progress of Opinion on the Origin of Species”が追加された。第6版では新たな章が第7章として追加され、第5版までの第7章以後が1章ずつ繰り下げられた。

第6版の1876年版で本文がわずかながら改訂され、これが最終テキストとなった。『種の起源』の普及版は第6版によることが多いが、そ

の場合1872年版によると記されていても、実際には1876年版がもとになっていることが多い。

⑧は20世紀初めまで本書の標準的な版となっていたものである。

⑩は初版に現れる単語をすべてアルファベット順にならべ、その前後の文章と掲載ページを記したものである。

7. 『ランの受精』(1862)

① *On the Various Contrivances by Which British and Foreign Orchids Are Fertilised by Insects, and on the Good Effects of Intercrossing.* John Murray, 1862.

・リプリント E.M. Coleman Ent. (New York), 1980.

② *The Various Contrivances by Which Orchids Are Fertilised by Insects.* 2nd ed., John Murray, 1877.

①と②の本文にはかなり異同がある。

8. 『攀援植物』(1865)

① “On the Movements and Habits of Climbing Plants,” *J. Proc. Linn. Soc. Lond.* 9, Nos. 33 & 34 (1865), 1-118.

② *On the Movements and Habits of Climbing Plants.* Longman, 1865. ①の市販用抜刷。

・リプリント Culture et Civilisation, 1969.

③ *The Movements and Habits of Climbing Plants.* 2nd ed., John Murray, 1875.

④ *Ibid.*, but with appendix to preface by Francis Darwin, 1882.

・リプリント R. West (Philadelphia), 1977.

③が書籍体の初版とみなされることが多い。

9. 『飼養動植物の変異』(1868)

① *The Variation of Animals and Plants under Domestication*, 2 vols. John Mur-

ray, 1868.

②*Ibid.*, 2nd issue, 1868.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969.

③*Ibid.*, 2nd ed., 1875.

①と②にはかなり本文の異同がある。③では大幅に本文が変更されている。

10. 『人間の由来』(1871)

①*The Descent of Man, and Selection in Relation to Sex.* 2 vols. John Murray, 1871.

・リプリント Cultures et Civilisation, 1969.

②*Ibid.*, 2nd ed., 1 vol. 1874.

・リプリント Gale (Detroit), 1974.

初版は1971年に1刷(2月), 2刷(3月), 3刷(4月), 4刷(12月), と出版された。刷によっていくらか本文に異同がある。C. C. のリプリントは3刷のものである。

第2版は大幅に本文が改訂され, 1875年, 1877年にも本文が改訂されている。

11. 『感情の表現』(1872)

①*The Expression of the Emotions in Man and Animals.* John Murray, 1872

・リプリント Culture et Civilisation, 1969. AMS, 1972. R. West, 1977.

②*Ibid.*, 2nd ed., Edited by Francis Darwin. John Murray, 1890.

②はフランシス・ダーウィンによって加筆されている。

12. 『食虫植物』(1875)

①*Insectivorous Plants.* John Murray, 1875.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969.

②*Ibid.* 2nd ed., Revised by Francis Darwin. John Murray, 1888.

・リプリント AMS, 1971.

13. 『他家受精と自家受精』(1876)

①*The Effects of Cross and Self Fertilisation in the Vegetable Kingdom.* John Murray, 1876.

②*Ibid.*, but errata corrected and with a new errata slip. Appleton, 1877.

・リプリント R. West, 1977.

③*Ibid.*, 2nd ed. John Murray, 1878.

②は①の組版を用いている。③の本文は①とほぼ同じだが, 370ページに長い脚注が加えられたため, それ以後のページは組換えられている。

14. 『花の異形』(1877)

①*The Different Forms of Flowers on Plants of the Same Species.* John Murray, 1877.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969.

②*Ibid.*, 2nd ed., with a new preface. John Murray, 1878.

③*Ibid.*, 3rd ed., Preface by Francis Darwin. John Murray, 1884.

①, ②, ③とも本文の内容, 組に異同はない。

15. 『植物の運動力』(1880)

①*The Power of Movement in Plants.* John Murray, 1880.

・リプリント Da Capo (New York), 1966. Culture et Civilisation, 1969. R. West, 1977.

16. 『ミミズと土』(1881)

①*The Formation of Vegetable Mould, through the Action of Worms, with Observations on Their Habits.* John Murray, 1881.

・リプリント Culture et Civilisation, 1969.

本書は好評で、1882年までに7刷が出版された。刷によってわずかではあるが本文に異同がある。

II. 他人の編著書への寄稿

以下に「転載」と記したのは、ダーウィンの部分のみを転載したものである。

1. 地質学入門

①John F. W. Herschel (ed.), *A Manual of Scientific Enquiry; Prepared for the Use of Her Majesty's Navy: and Adapted for Travellers in General*. John Murray, 1849.

Darwin's Contribution is Section VI, Geology, pp. 156—95.

・転載 Bar I, 227—250.

②*Ibid.*, 2nd ed., 1851.

Darwin's contribution, pp. 166—204.

・リプリント Dawsons (London), 1974.

③*Ibid.*, 3rd ed., 1859. Superintended by R. Main. Darwin's contribution, pp. 268—299.

④*Ibid.*, 4th ed., 1871. Revised by J. Phillips. Darwin's contribution, pp. 248—275.

⑤*Ibid.*, 5th ed., 1886. Edited by R. S. Ball. Darwin's contribution, pp. 272—299, revised by A. Geikie.

ダーウィンの部分だけの抜刷が各版について作られ、市販された。

2. ヘンズロー回想

①Leonard Jenyns, later Blomefield Jenyns, *Memoir of the Rev. John Stevens Henslow M. A., F. L. S., F. G. S., F. C. P. S., late Rector of Hitcham and Professor of Botany in the University of Cambridge*. John Van Voorst, 1862.

Recollections by Darwin, pp. 51—55.

・転載 N. Barlow, *Darwin and Henslow*, pp. 221—224. Bar II, 72—74.

3. エラズマス・ダーウィン伝

①Ernst Krause, *Erasmus Darwin. Translated from the German by W. S. Dallas, with a Preliminary Notice by Charles Darwin*. John Murray, 1879.

Darwin's notice, pp. 1—127.

・リプリント Gregg International, 1971.

②*The Life of Erasmus Darwin ... Being an Introduction to an Essay on His Scientific Work*. 2nd ed., 1887. Edited by Francis Darwin. Text as ①, with preliminaries altered.

クラウゼのドイツ語原文は1879年2月に *Kosmos* に発表された。これは進化論に対するエラズマスの寄与を論じたものである。ダーウィンによる伝記の部分は、クラウゼの執筆部分よりも長い。

クラウゼは英語版出版に際し文章をかなり変更した。このことが①に述べられていなかったため、サミュエル・バトラーによるダーウィン攻撃がおきた。②のまえがきにはフランシス・ダーウィンによって内容変更のことが記されている。

4. 序文の寄稿

①Anton Kerner, *Flowers and Their Unbidden Guests*. the translation revised and edited by W. Ogle. Kegan Paul, 1878.

Darwin's prefatory letter to Dr. Ogle, pp. v—vi.

・転載 Bar II, 215—216.

②August Weismann, *Studies in the Theory of Descent*. Translated and edited by R. Meldola. Sampson Low, 1882.

Darwin's prefatory notice, pp. v—vi.

・転載 Bar II, 280—281.

③Hermann Müller, *The Fertilisation of Flowers*. Translated by D'Arcy W. Thompson. Macmillan, 1883.

Darwin's prefatory notice, pp. vii—x.

5. 手紙・草稿の転載

①James Geikie, *Prehistoric Europe: A Geological Sketch*. Stanford, 1881.

Extracts from 2 letters by Darwin, pp. 141—142.

・転載 Bar II, 233—235.

②George J. Romanes, *Animal Intelligence*. Kegan Paul, 1882.

Extracts from Darwin's notes, throughout.

③George J. Romanes, *Mental Evolution in Animals: With a Posthumous Essay on Instinct by Charles Darwin*. Kegan Paul, 1883.

Darwin's essay, pp. 355—384.

①は氷河作用に関する1876年11月と1880年7月の手紙の抜粋である。手紙の全文は *Life & Letters*, III, pp. 213—215と *More Letters*, II, pp. 165—166 に収録されている。

③には後述する『自然選択』の第10章の草稿の半量近くが翻刻されている。②には他の個所からの抜粋が引用されている。

III. パンフレットなど

1. ヘンズローへの手紙

①*For Private Distribution. Extracts from Letters Addressed to Professor Henslow by C. Darwin, Esq.* 31 pages. Cambridge University Press, 1835.

・転載 Bar I, 3—16.

①には航海の間にダーウィンがヘンズローに出した手紙10通からの抜粋が収められている。1835年11月16日のケンブリッジ哲学会で読まれたもので、公刊されず、12月に学会員にだけ配布された。ダーウィンはこれが公表されるとは考えていなかった。

2. 公開質問状

①*Questions about the Breeding of Animals*. 8 pages. [1839].

・リプリント Society for the Bibliography of Natural History (London), 1968.

・転載 In P. J. Vorzimmer, "Darwin's Questions about the Breeding of Animals," *J. Hist. Biol.* 2 (1969), 269—281.

②*Query to Army Surgeons. ?* Single Sheet. [1862]. No copy known.

③*Queries about Expression*. Single Sheet, London, [1867].

・フォトコピー In R. B. Freeman & P. J. Gautrey, "Charles Darwin's Queries about Expression," *Bulletin of the British Museum (Natural History) Historical Series*, 4, No. 3 (1972).

①が印刷された時期をリプリントの編者 G. de Beer は1840年としているが、Freeman によればそれは誤りで、1839年3月末から4月初めとみるべきである。

②はヒトの体色と熱帯における病気への抵抗力との相関についての各地の軍医への質問状である。実物は現存していないが、『人間の由来』(1871) pp. 244—245 に言及され、本文が転載されている。

③とほぼ同じ内容のものがロンドン版とは独立に、おそらくロンドン版よりも前に、アメリカと香港で印刷されている。1868年にはアメリカ版がスミソニアン協会の年報に転載されている。ロンドン版の本文は『感情の表現』(1867) p. 15に転載されている。これらの本文の違いなどについて、Freeman & Gautrey が詳細に論じている。

3. 推薦状

①*Additional Testimonials Submitted to the Council of University College, London, by Edward William Brayley... a Candidate for the Professorship of Geology*. 1845. 19 pages. Darwin's letter, p. 7.

②*Testimonials for Thomas H. Huxley, F. R. S., Candidate for the Chair of Natural*

History at the University of Toronto.
1851. 10 pages. Darwin's testimonial,
p. 4.

- ③ *Testimonials in Favour of W. Boyd Dawkins, M. A., F. R. S., F. G. S. a Candidate for the Woodwardian Professorship of Geology.* [in the University of Cambridge]. 1873. 10 pages. Darwin's letter, p. 2.

19世紀を通じ、しかるべき職への応募者は推薦文を印刷して送るのが普通であった。ダーウィンの推薦文が掲載されているものとしては上記の3点が見つまっているが、ほかにも書いていたと思われる。

4. 請願と証言

- ① *Enquiry by the Trustees of the British Museum.* 1858. No copy known. [Contains a letter by Darwin.]
- ② *Public Natural History Collections. Copy of a Memorial Addressed to the Right Honourable the Chancellor of the Exchequer.* Nov. 18, 1858. Signed by Darwin, G. Bentham, W. H. Harvey, A. Henfrey, J. S. Henslow, J. Lindley, G. Busk, W. B. Carpenter and T. H. Huxley.
・転載 Bar II, 25—30.
- ③ *Memorial to the Right Hon. the Chancellor of the Exchequer on Transfer of Natural History Collections from British Museum, Bloomsbury, to South Kensington.* May 14, 1866.
Signed by Darwin and twenty-four others.
No Copy known.
- ④ *Report of the Royal Commission on the Practice of Subjecting Live Animals to Experiments or Scientific Purposes; with the Minutes of Evidence and Appendix.* Her Majesty's Stationery Office, 1876.
Darwin's evidence, p 234.
- ⑤ *Digest of Evidence Taken before the Royal*

Commission on the Practice of Subjecting Live Animals to Experiments for Scientific Purposes: with an Alphabetical List of Witness. Her Majesty's Stationery Office, 1876.

Digest of Darwin's evidence, p. 34.

①, ②, ③は公共の自然史博物館についての意見書と請願書である。①の中のダーウィンの手紙は *More Letters*, I, pp. 109—10 に収録されており、これが印刷されたことは *Ibid.*, p. 453 に述べられている。②は *Gdnrs' Chronicle* 48 (1858), 861 に転載されている。③は *Nature*, 9 (1873), 41のP. L. Sclater のレターの中に転載されている。

④は動物実験についての証言、⑤はその要約である。

5. 地域クラブへの勧誘

① *To Members of the Down Friendly Club.* Single Sheet. Feb. 19, 1877.

ダーウィンはクラブの設立 (1852) に協力して以来、30年間にわたって会計をつとめた。①は脱退希望者にとどまるよう説得するため、ダーウィンの印刷し、会員に配布したものである。

第二部 草稿類の翻刻

ダーウィン自筆の手紙や草稿などが大量に残されているが、そのうちのかなりの部分が現在までに翻刻されている。とくに1960年以後、ダーウィンのノートブックなどが次々と翻刻されダーウィン研究の基礎となっている。

ダーウィンの草稿の多くはケンブリッジ大学図書館に保管されているが、それについては下記のリストがある。

Handlist of Darwin Papers at the University Library Cambridge. Cambridge University Press, 1960. (絶版)

ダーウィンの草稿は現在でもこの *Handlist* に沿った形で分類整理されているが、その表示法は *Handlist* のものとは異なり、たとえば DAR

205 のように表される。

以下に記す草稿についての解説には各翻刻版につけられている解説のほか、下記の論文を参照した。

Dov Ospovat, *The Development of Darwin's Theory*. Cambridge University Press, 1981.

Frank J. Sulloway, "Darwin's Conversion: The Beagle Voyage and Its Aftermath," *J. Hist. Biol.*, 15 (1982), 325—396.

I. 『自然選択』

- ①Robert C. Stauffer (ed.), *Charles Darwin's Natural Selection: Being the Second Part of His Big Species Book Written from 1856 to 1858*. Cambridge University Press, 1975.

ダーウィンは1856年5月14日に進化についての名著の執筆に著手した。これは *Natural Selection* と題される予定であった。飼養下の変異に関する第1章と第2章を終えたあとで地理的分布の最初の部分(第11章)を執筆し、その後は第3章「交雑」から順に書き続け、第10章「本能」を1858年3月に終えた。その年の4月から6月にかけて第4章と第6章に分岐の原理に関することがらを加筆した。その直後、1858年6月18日にウォレスの手紙が到着し、名著の執筆は中断された。

『種の起源』出版後、ダーウィンは『自然選択』をさらに拡大し、3部作の著書を執筆することにした。それは第1部「飼養下の変異」、第2部「自然選択説」、第3部「自然選択説による諸事実の説明」、という構成になるはずであった。『自然選択』の草稿の第1章と第2章はこの第1部の材料として利用され、第1部は『飼養動植物の変異』として1868年に出版された。しかし第2部以後はついに着手されなかった。その結果、『自然選択』の草稿の第3章から第11章までが残されることになった。①はそれを翻刻したものである。

なお、第3部に相当する部分は『自然選択』

の草稿の第11章以外には執筆されておらず、『種の起源』の第9章から第13章(初版)に要約の形で与えられているだけである。

ところで、ダーウィンは1842年ころから冊子形式のノートに代えてルースリーフ形式のノートをつけるようになった。DAR 205にはこの形式のノートがまとめられているが、この中に上記の第3部の材料となるべきものがかかなりあり、ダーウィン自身により内容別に分けられている。ただしこれは翻刻されていない。

II. スケッチ(1842)とエッセー(1844)

- ①Francis Darwin (ed.), *The Foundations of the Origin of Species. Two Essays Written in 1842 and 1844*. Cambridge University Press, 1909.
・リプリント Kraus Reprint, 1969.
- ②Gavin de Beer (ed.), *Evolution by Natural Selection*, Cambridge University Press, 1958.
・リプリント Johnson Reprint, 1971.
- ③Peter J. Vorzimmer, "An Early Darwin Manuscript: The 'Outline and Draft of 1839,'" *J. Hist. Biol.*, 8 (1975), 191—217.
- ④David Kohn, Sydney Smith, and Robert C. Stauffer, "New Light on *The Foundations of the Origin of Species*: A Reconstruction of the Archival Record," *J. Hist. Biol.*, 15 (1982), 419—442.

①には1842年のスケッチと1844年のエッセーの翻刻、ならびに F. Darwin の解説が収められている。②には①の全文が転載されているほか、G. de Beer の序文と、1858年のダーウィンとウォレス連名の論文が転載されている。

④によると、1842年のスケッチの第1章冒頭部分の草稿は、最初に書かれたもの(A草稿)に多くの変更が加えられて最終的なもの(B草稿)になっており、①の翻刻ではこの部分に誤りが多い。このA草稿とB草稿の翻刻は④に掲載されている。

ところで1896年に鉛筆書きのスケッチ(1842)

が発見されたとき、同時に13ページの別の草稿と1枚の表と裏に概要と序文が書かれたものが見つかった。これは③に翻刻されているが、Vorzimmer はそれを1839年に書かれたものと推定している。しかし④によると、13ページの草稿は1844年のエッセーの第1章冒頭部分の最初の草稿であり、概要と序文は1842年のスケッチにつけられていたものである。

III. 日記と読書録

1. 航海日記

①Nora Barlow (ed.), *Charles Darwin's Diary of the Voyage of H. M. S. Beagle*. Cambridge University Press, 1933.

・リプリント Kraus Reprint, 1964.

②Richard Keynes (ed.), *Charles Darwin's 'Journal of a Voyage in H. M. S. Beagle, 1831—1836'*. Genesis Publications 1979.

①はビーグル号航海の間につけていた日記(1831年10月24日～1836年11月7日)を翻刻したものである。これが『ビーグル号航海記』の基礎材料となった。

②は稿本をそのまま複製したもので、500部限定の豪華本である。

2. 生涯の日記

①Gavin de Beer (ed.), "Darwin's Journal," *Bulletin of the British Museum (Natural History)*, *Historical Series*, 2, No. 1 (1959).

ダーウィンは生涯にわたって研究の経過や私的出来事をごく簡単に記し続けた。1838年8月から記し始め、誕生からその時までの記事は記憶や覚書から再構成したと思われる。

①の翻刻はダーウィン自筆のものではなく転記されたものに基づいているが、この翻刻が出版されたあとでダーウィン自筆のものが発見されている。

3. 読書録

①Peter J. Vorzimmer, "The Darwin Reading Notebooks (1838—1860)," *J. Hist. Biol.*, 10 (1977), 107—153.

3冊の読書ノートが残されているが、そのうち2冊は年代順に記され、他の1冊はアルファベット順に記されている。アルファベット順のものは年代順の2冊のノートから編集したものである。

年代順のノートのうち、第一のものは1839年6月1日から1851年末、第二のものは1852年から1860年にかけて記入されている。両者ともノートの一方からは「読んだ本」が記され、他方(裏表紙の方)からは「読むべき本」が記されている。なお第一のノートの「読んだ本」の最初の部分には、Cノートの末尾(276, 275, 270, 269)の読書記録(1838年2月から1839年5月まで)がほとんどそのまま転記されている。

①には二つの年代順の読書ノートの、「読んだ本」の部分が翻刻されている。

IV. 自伝

①Francis Darwin (ed.), *The Life and Letters of Charles Darwin, Including an Autobiographical Chapter*. 3 vols. John Murray, 1887.

・リプリント Johnson Reprint 1969.

②*Ibid.*, 2 vols. D. Appleton, 1887.

・リプリント Basic Books, 1959.

③Francis Darwin (ed.), *Charles Darwin, His Life Told in an Autobiographical Chapter and in a Selected Series of his Published Letters*. John Murray, 1892.

・リプリント Peter Smith, 1958. Dover, 1958.

④Nora Barlow (ed.), *The Autobiography of Charles Darwin 1809—1882. With the Original Omissions Restored*. Collins, 1958.

・紙装版 Norton, 1969.

⑤Gavin de Beer (ed.), *Charles Darwin, Thomas Henry Huxley. Autobiographies*.

Oxford University Press, 1974.

ダーウィンは1876年に自分の楽しみと子孫の興味のために回想録をつづり、1878年と1881年に加筆している。

この回想録の最初の翻刻が①に収められているが、編者による勝手な削除が多く、配列にも誤りがある。しかし本書はダーウィンの生涯に関する基礎資料として、さまざまな形で出版されてきた。②はそのアメリカ版だが、マレー版（3巻本）とは異なり2巻本である。本書からの引用がアメリカ版のページ数で示されることもあるが、マレー版によるのが正当であろう。

③は Abridged Edition である。

自伝の完全な翻刻は④によって与えられた。

④には自伝のほかに付録としていくつかの未公開の手紙と、エンマへの求婚に際しダーウィーンが書いた結婚すべきか否かについてのバランスシートが翻刻されている。ただし、現在刊行されているペーパーバックス版にはこの付録は収められていない。

⑤にもダーウィンの自伝が全文収められている。

なお、ダーウィンは1838年8月に10歳までの回想録を記したが、この自伝断片は⑤ならびに *More Letters* に収められている。

V. 書簡

①Francis Darwin (ed.), *The Life and Letters of Charles Darwin*. John Murray, 1887. (既出)

②Francis Darwin & Albert C. Seward (eds.), *More Letters of Charles Darwin. A Record of His Work in a Series of Hitherto Unpublished Letters*. 2 vols. John Murray, 1903.

・リプリント Johnson Reprint, 1972.

③Letters to Roland Trimen in Edward B. Poulton, *Charles Darwin and the Origin of Species*. Longman's, 1909. pp. 213—246.

④Henrietta E. Litchfield (ed.), *Emma Darwin, A Century of Family Letters,*

1792—1896. 2 vols. John Murray, 1915.

⑤James Marchant, *Alfred Russel Wallace, Letters and Reminiscences*. 2 vols. Cassell, 1916

・アメリカ版 1 vol. Harper & Brothers, 1916.

・リプリント 1 vol. Arno, 1975.

⑥Bert J. Loewenberg (indrod), *Calendar of the Letters of Charles Robert Darwin to Asa Gray*. Historical Records Survey, 1939.

・リプリント Scholarly Resources, 1973.

⑦Nora Barlow (ed.), *Charles Darwin and the Voyage of the Beagle*. Pilot Press, 1945.

⑧Charles Baehni, "Correspondance de Charles Darwin et d'Alphonse de Candolle," *Gesnerus*, 12 (1955), 109—56.

⑨Gavin de Beer (ed.), "Some Unpublished Letters of Charles Darwin," *Notes and Records of the Royal Society of London*, 14 (1959), 12—66.

⑩Gavin de Beer (ed.), "Further Unpublished Letters of Charles Darwin," *Ann. Sci.*, 14 (1958), 83—115. (実際の発刊は1960)

⑪Robert M. Stecher (ed.), "The Darwin-Innes Letters. The Correspondence of an Evolutionist with His Vicar, 1848—1884," *Ann. Sci.*, 17 (1961), 201—58.

⑫Nora Barlow (ed.), *Darwin and Henslow. The Growth of an Idea. Letters 1831—1860*. University of California Press 1967.

⑬Gavin de Beer (ed.), "The Darwin Letters at Shrewsbury School," *Notes and Records of the Royal Society of London*, 23 (1968), 68—85.

⑭Robert M. Stecher (ed.), "The Darwin-Bates Letters. Correspondence between Two Nineteenth-Century Travellers and Naturalists," *Ann. Sci.*, 25 (1969), 1—47,

- ⑮Peter W. van der Pas, "The Correspondence of Hugo De Vries and Charles Darwin," *Janus*, 57 (1970), 173—213.
- ⑯Paul H. Barrett & Alain F. Corcos, "A Letter from Alexander Humboldt to Charles Darwin," *J. Hist Med.*, 27 (1972), 159—172.
- ⑰Yvette Conry, *Correspondance entre Charles Darwin et Gaston de Saporta. Précédée de Histoire de la Paléobotanique en France au XIXe Siècle*. Presses Universitaires de France, 1972.
- ⑱Thaddeus J. Trenn, "Charles Darwin, Fossil Cirripedes, and Robert Fitch: Presenting Sixteen Hitherto Unpublished Darwin Letters of 1849 to 1851," *Proc. Am. Phil. Soc.*, 118 (1974), 471—491.
- ⑲A. E. Gunther, "The Darwin Letters at Shrewsbury School," *Notes and Records of the Royal Society of London*, 30 (1975), 25—43.
- ⑳P. Thomas Carroll (ed.), *An Annotated Calendar of the Letters of Charles Darwin in the Library of the American Philosophical Society*. Scholarly Resources, 1976.
- ㉑James R. Moore, "On the Education of Darwin's Sons: The Correspondence between Charles Darwin and the Reverend G. V. Reed, 1857—1864," *Notes and Records of the Royal Society of London*, 32 (1977), 51—70.
- ㉒Richard D. Keynes (ed.), *The Beagle Record: Selections from the Original Pictorial Records and Written Accounts of the Voyage of H. M. S. Beagle*. Cambridge University Press, 1979.

現在のところ書簡集として基本的なものは①, ②, および㉑である。㉑には626通の手紙が年代順に配列されている。その半分が未刊のもの

である。

④はエンマの伝記だが、チャールズの手紙も多数収録されている。⑤にはダーウィンとウォレスとの間に交換された手紙が収録されている。⑦には航海の間にダーウィンが家族に出した手紙が含まれている。

ダーウィンが航海の間にヘンズローに出した手紙の一部は、1836年にダーウィンの知らない間に公開されていたが(パンフレットの項参照)、完全な翻刻は㉑が初めてである。㉑には⑦や⑫などからの抜粋のほか、フィッツ・ロイの未刊の手紙がかなり収録されている。しかし、㉑の最大の特徴は、ビーグル号乗組員による絵画やスケッチが多数収載されていることである。

ここで示したもののほかにも、1通あるいは数通の手紙の翻刻があちこちに発表されている。⑨と⑩にその一覧があるが、完全なものではない。

現在、F. Burkhardt, Sydney Smith, D. Kohn, W. Montgomery によって、*The Collected Letters of Charles Darwin* の編集が進められているが、これが出版されれば書簡集の基準となるであろう。

VI. 理論ノート

- ①Gavin de Beer, M.J. Rowlands & B. M. Skramovsky (eds.), "Darwin's Notebooks on the Transmutation of Species," *Bulletin of the British Museum of Natural History, (Historical Series)*, 2, No. 2 (1960), No. 3 (1960), No. 4 (1960), No. 5 (1960), No. 6 (1961), 3, No. 5 (1967).
- ②Paul H. Barrett (ed.), *Metaphysics, Materialism and the Evolution of Mind: The Early Writings of Charles Darwin*. The University of Chicago Press, 1980.
- ③Sandra Herbert (ed.), *The Red Notebook of Charles Darwin*. Cornell University Press, 1980.
- ④Charles Darwin's *Theoretical Notebooks (1836—1844)*, (A Colour filmstrip).

British Museum (Natural History), 1982.
⑤P. H. Barrett, P. J. Gautrey, S. Herbert,
D. Kohn and S. Smith (eds.), *Charles
Darwins Theoretical Notebooks (1836—
1844)*. British Museum (Natural His-
tory), To be published in October 1983.

ビーグル号航海の間、ダーウィンは野外観察
ノートをつけていたが、その最後にあたるのが
Red Notebook (R. N. と略記) の前半で、
1836年5月あるいは6月から記入されている。
R. N. の後半には帰航直後の理論的考察が記さ
れていて、1837年5月あるいは6月に終えてい
る。その後ダーウィンはノートブックを地質学
に関するAノート(1837年7月—1839年)と転
成ノートとの二つの系列に分けた。転成ノート
はB(1837年7月—1838年2月)、C(1838年
3月—7月)と続けられた。これ以後、行動に
ついてのM & N ノートブック(1838—1839)
の系列が分離し、転成ノートはD(1838年7月
—10月)、E(1838年10月—1839年7月)と続
けられた。その後さらに2冊の転成ノートが続
いた。この2冊は装丁がはずされてページがば
らばらになっているのでダーウィン研究者によ
って Torn-apart notebook (T. N. と略記) と
名付けられている。第一の T. N. は42 ページ
が残存しており、1838年7月から1841年秋にか
けて記入されている。第二の T. N. は12 ページ
が残存しており、1842年夏に記入されている。

B～Eノートは①に、R. N. は③に翻刻され
ている。

②には M & N ノートのほか、Old and
Useless Notes (OUN と略記) と Essay on
Theology and Natural Selection と名付けら
れた草稿とが翻刻されている。OUN は1837年
から1840年に記入されたもので、内容は M &
N ノートと類似している。Essay on Theology
は、ダーウィンが1838年11月に読んだとみられ
る John Macculloch, *Proofs and Illustrations
of the Attributes of God* に対する読後評で、
当時のダーウィンの世界観が比較的まとまった
形で示されている。②にはそのほかに、B～E

ノートと *Beagle Diary* からの抜粋がのせられ
ている。

④と⑤には R. N., Aノート, B～Eノート,
T. N., M & N ノートなどが収められる。④
は草稿のフィルム, ⑤は翻刻に解説を付したも
のである。

VII. 観察ノート

1. エジンバラ時代の海産生物観察日誌

①“On the Ova of *Flustra*, or, Early Note-
book, Containing Observations Made by
C. D. When He Was at Edinburgh,
March 1827,” Bar II, 285—291.

ダーウィンは1827年3月27日にエジンバラの
プリニー学会でアミガイの卵とウミビルの卵に
ついて報告している。①はそのおりの観察日誌
(3月16日—4月23日)の翻刻である。

2. ビーグル号野外観察ノート

ビーグル号航海の間にダーウィンが記した25
冊のノートブックがダウンのダーウィン博物館
に保管されている。そのうちの6冊は標本カタ
ログ原簿, 18冊は野外観察時に鉛筆で記入した
観察ノートである。上述したように最後の観察
ノートにあたる R. N. は完全に翻刻されてい
る。また、各ノートからの抜粋が既出の N.
Barlow (ed.), *Darwin and the Voyage of the
Beagle* に収められている。

帰航後の野外観察ノートとしては、1838年夏
にグレン・ロイの平行路を調査したときのもの
がある。

3. ビーグル号観察日誌

ダーウィンは航海の間、一般的な Diary の
ほかに、動物学と地質学に関する観察日誌(DAR
31—38)をつけていた。これは航海時のダーウ
ィンの思想をさぐるうえで重視されるようにな
ってきたが、翻刻はされていない。

4. 研究者向け標本カタログ

①Nora Barlow (ed.), “Darwin’s Ornitho-
logical Notes,” *Bulletin of the British Mu-*

seum (*Natural History*), *Historical Series*, 2, No. 7 (1963).

ダーウィンは航海の最後の時期、1836年6月中旬から8月中旬にかけて標本カタログ原簿や観察日誌を整理し、標本を分類同定する各分野の研究者のための標本カタログを作製した。それにはつぎの12種があった。

Animals, Birds, Insecta, Insects, Shells, Plants, Mammalia in Spirits of Wine, Reptiles in Spirits of Wine, Birds in Spirits of Wine, Fish in Spirits of Wine, Insects in Spirits of Wine, Shells in Spirits of Wine.

この中には“Birds”のようにダーウィン自筆のものと、“Plants”のように助手の Syms Covington の手になるものがある。行方不明であった“Plants”の部が1980年12月に発見されて話題になったことは、まだ記憶に新しい。

①は“Birds”の部を翻刻したものであるが、付録として R. N. の後半の一部も収められている。

5. マルハナバチ観察日誌

①“Über die Wege der Hummel-Männchen,” in *Gesammelte kleinere Schriften von Charles Darwin. Ein Supplement zu seinen grösseren Werken*. 2 vols., E. Günther, 1885. Vol. 2, pp. 84-88.

②R. B. Freemann (ed.), “Charles Darwin on the Routes of Male Humble Bees,” *Bulletin of the British Museum (Natural History)*, *Historical Series*, 3, No. 6 (1968).

ダーウィンは1854年から1861年にかけて子供たちとともにマルハナバチの飛行ルートを観察していた。その結果が公表されることはなかったが、1872年に概要をまとめ、それを Hermann Müller に送った。①にはその概要(独文)が掲載されている。ダーウィン自筆のものと草稿は英文であったと思われるが、自筆草稿は見つかっていない。

これとは別に、“Humble Bees”と題されたダーウィン自筆の観察日誌(1854年9月—1861年9月)が発見されている。

②には①の英訳と、観察日誌の翻刻が収められている。

VIII. その他

1. 初期の地質学関係草稿

①D. R. Stoddart (ed.), “Coral Islands by Charles Darwin,” *Atoll Research Bulletin*, No. 88 (1962).

ビーグル号航海の後半、ダーウィンは地質学のいくつかのテーマについて論文草稿を執筆していた。ダーウィンはこれを Coral paper, Patagonia paper, Rio paper, Cleavage paper などと呼んでいた。この中で現存する Coral paper (1835年執筆)を翻刻したものが①である。

2. パンゲネシス草稿

①R. C. Olby (ed.), “Darwin’s Manuscript of Pangenesis,” *Brit. J. Hist. Sci.*, 1 (1963), 251-263.

②R. C. Olby, *Origins of Mendelism*. Constable, 1966, pp. 173-175.

パンゲネシス仮説は1868年に『飼養動植物の変異』の中で公表された。これとは別に、“Hypothesis of Pangenesis”という表題をもった草稿が残されており、これは1865年に執筆されたと思われる。①はその翻刻であり、②にはそのごく一部が転載されている。

補 説

1. 全集

現在刊行されている英語の全集は下記のものだけである。

The Works of Charles R. Darwin. 18 vols. Reprint of Appleton (1893—1897) ed., AMS, 1972.

この全集には動物学関係の編著書3点を除いた

ダーウィンの著書13点と *Life & Letters* が収められている。

この全集はニューヨークのアプルトン社版のリプリントであるが、ダーウィンの著書のアプルトン社版はロンドン版（マレー社あるいはスミス・エルダー社）と同じ版型を用いている。したがってこの全集はロンドン版のリプリントの代わりとして利用することができる。

以下に本全集の各巻ごとに、a) コピー原本の出版年、b) アプルトン社版の最初の出版年、c) 版型の同じロンドン版、を記載する。

- ① *Journal of Researches*. 2nd ed.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1871.
 - c) John Murray, 1870.
- ② *Coral Reefs*. 3rd ed.
 - a) Appleton, 1897.
 - b) Appleton, 1889.
 - c) Smith Elder, 1889.
- ③ *Volcanic Islands and South America*. 3rd ed.
 - a) Appleton, 1895.
 - b) Appleton, 1891.
 - c) Smith Elder, 1891.
- ④ & ⑤ *Origin of Species*. 6th ed., 2 vols
 - a) Appleton, 1897 (Vol. I), 1896 (Vol. II).
 - b) Appleton, 1889.
 - c) John Murray, 1888.
- ⑥ *Fertilisation of Orchids*. 2nd ed.
 - a) Appleton, 1895.
 - b) Appleton, 1877.
 - c) John Murray, 1877.
- ⑦ & ⑧ *Variation under Domestication*. 2nd ed., 2 vols
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1876.
 - c) John Murray, 1875.
- ⑨ *Descent of Man*. 2nd ed.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1875.
 - c) John Murray, 1874.

- ⑩ *Expression of Emotions*
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1873.
 - c) John Murray, 1872.
- ⑪ *Climbing Plants*. 2nd ed.
 - a) Appleton, 1893.
 - b) Appleton, 1876.
 - c) John Murray, 1875.
- ⑫ *Insectivorous Plants*. 1st ed.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1875.
 - c) John Murray, 1875.
- ⑬ *Cross and Self Fertilisation*. 1st ed.
 - a) Appleton, 1895.
 - b) Appleton, 1877.
 - c) John Murray, 1876.
- ⑭ *Different Forms of Flowers*. 1st ed.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1877.
 - c) John Murray, 1877.
- ⑮ *Movement in Plants*.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1881.
 - c) John Murray, 1880.
- ⑯ *Vegetable Mould and Worms*.
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1882.
 - c) John Murray, 1881.
- ⑰ & ⑱ *Life and Letters*. 2 vols
 - a) Appleton, 1896.
 - b) Appleton, 1887.
 - c) 独自の版型を使用

2. 邦訳書

現在刊行されているものだけを記載する。

- ① 『ビーグル号航海記』全3冊、島地威雄訳、岩波文庫、1959—1961。
- ② 『種の起原』全2冊、堀伸夫訳、槇書店、1958—1959。
- ③ 『種の起原』全3冊、八杉龍一訳、岩波文庫、1963—1971。
- ④ 『人類の起原』、池田次郎・伊谷純一郎訳、

中央公論社「世界の名著・39」, 1967。

⑤『ミミズと土壌の形成』, 渋谷寿夫訳, たたら書房, 1976。

⑥『ダーウィン自伝』, 八杉龍一・江上生子訳, 筑摩書房, 1973。

①の底本は Everyman's Library 版であるが, E-L 版はマレー社の1860年版をもとにしている。訳者はマレー社版と E-L 版を対照させ, マレー社版には「追記」がなく, 「はしがき」にも違いがあると注記しているが, おそらく訳者

は1845年のマレー社版を用いていたのであろう。

②には底本が明記されていない。章の構成から見て, 本文は第6版のものである。

③は初版の訳であるが, Peckham (1959) をもとに, 各版の違いも注記されている。

④の底本は1909年のマレー社版であるが, この版は第二版(初刷, 1874)の最終テキスト(1877年版)に基づいている。全訳ではなく, 原注のすべてと本文の一部が省略されている。

⑥は Barlow 編(1958)の全訳である。付録もすべて訳出されている。